

令和5年度 研修会「歯科医療受診困難者における問題点と対策～かかりつけ歯科受診の検討～」

報告

1. 日時 令和6年1月25日(木) 午前の部：10:30～11:30、午後の部：17:00～18:00
2. 場所 乙訓福祉施設事務組合大会議室
3. 主催 「医療的ケア」委員会
4. 参加者 午前の部：申し込み 23名、医療的ケア委員会 1名、事務局 2名
午後の部：申し込み 8名、医療的ケア委員会 2名、事務局 2名
5. 内容

① 「講演：歯科医療受診困難者における問題点と対策～かかりつけ歯科受診の検討～」

- ・乙訓圏域の障がい者福祉施設におけるこれまでの歯科健診と口腔ケアについて
- ・今年度「医療的ケア」委員会ワーキングチームで実施した「乙訓圏域障がい者施設における歯科検診と口腔ケアの取り組みについて」のアンケートの結果報告
- ・アンケートから見えてきた問題報告
 - ・乙訓圏域に多くの障がい者福祉施設があるが、業態は様々
 - ・口腔について、健診の必要性は、ある程度認識されているが、施設の事業や各個人の責任で行われている現状
 - ・専門的な介入による口腔の問題点抽出と口腔ケアの重要性はある程度共通認識
 - ・資金的な補助がなくなると、今後の歯科健診や専門的口腔ケアも難しくなる
- ・医療受診困難者とその介助者（保護者）の現実について
- ・歯科医療受診困難者の方が口腔を管理すること、口腔衛生を保つことの意義について
 - 口腔ケアという概念ではなく、口腔衛生管理という概念へ
 - 歯の治療が必要だから、歯医者に行きましようではなく、歯の治療をしなくて良いように、歯医者へ行きましようという考えへ
- ・問題点の解決策を模索、どうすれば「受診行動」に繋がるのかについて
 - かかりつけ医の重要性

② 「講師と参加者の意見交流」

参加者の方々が、日ごろの支援を想定しながら、質問していた。

(主な質問)

Q 何歳くらいから、かかりつけ医があった方がよいか？

A 年齢制限はないが、歯が生えてきたら、受診しても良いと感じるし、心配や不安がある際は、通院しても良いと考えられる。3歳には、かかりつけ医はあった方が良い。

Q 保護者とのかかわりの中で、通院につなげるための関りとは？

A 普段、歯科受診はされていますか？かかりつけ医はどうされていますか？と聞くところから始めると良い。

Q 歯医者に入れたい人には、どのような対応をしているか？

A 嫌な思いをさせないことを意識し、成功体験を重ねながら、スモールステップで支援する。

6. アンケートのまとめ (回収 22 名)

1 支援をしている対象者は、どなたですか？

児童 12 名、成人 5 名、両方 5 名

2 研修会に関して、ご意見・ご感想をお願いいたします。

- ・大橋先生がどういう思いで携わっているのかお話を聞くことができ良かったです。大橋先生のように、個々の特性を理解して下さる医療が増えたら良いなと思いました。
- ・講師の大橋先生はじめスタッフの方々、ありがとうございます。乙訓圏内における口腔ケアの方向性等、勉強させていただき貴重な経験ありがとうございました。
- ・口腔ケアという言葉はよく聞きますが、それとは違う、口腔衛生管理の意義について聞いたのが良かったです。最後の質疑応答で、個々のケースによるのは前提の上で、具体的な支援例が聞いたことでイメージができて、保護者の方に受診を勧めるきっかけになるなと思いました。
- ・担当利用者へかかりつけ歯科の問い合わせをしたことがなかったので、これから確認が必要だと認識できた。
- ・日々とてもお世話になっています。これからもスペシャルニーズの重要性を噛み締めつつ引き続きよろしくお願いします。
- ・このような機会を作って頂きありがとうございました。
- ・はれの樹さんがどのような方を対象にしたい、どのような取り組みを地域で進めていきたいかが、わかりやすかったので、今後相談をされた時に繋げるまで道筋がつけやすくなりました。
- ・早くからの口腔ケアに対しての意識が必要なることを実感しました。
- ・詳しく知らない分野だったので、よく理解できて良かったです。
- ・今日、お話したことを支援員として理解し、お母さんに伝えることが大事だと思いました。
- ・「今、行ってもな…」ではなく、「今こそ！」と始めるのが大事。
- ・とても良い歯科医院ができたのだなあとと思いました。もっとたくさん関係者がこのことを知れたら良いのと思いました。
- ・ありがとうございました。もっとスペシャルニーズに適した歯科についてみんなが情報を得られたらと思います。
- ・講義を聞いて、口腔ケアの重要性と治療になる前の普段のケアが大事だと再確認できた。
- ・ずっとお話を聞きたいと思っていたので、参加できて良かったです。
- ・お話がすごく心におちます。そこが嫌な場所ではないこと、だからこそ、普通に行けるところ、何かあっても行けるこわくないところ、そういう考えに、すごく共感します。いいお話をありがとうございました。
- ・虫歯になってからでは、遅いので、かかりつけ歯科を持つことが大切（こわくない場所を持つことが大切）
- ・以前、京都市内の事業所に勤務していた時と異動で乙訓に来てからの地域的な事情が異なるように感じていたので、これまでの地域独自の取り組みからの流れも知れて良かったです。
- ・当施設では、口腔ケアを行っていないので、新鮮なお話しでした。
- ・正直、普段あまり意識していなかったことではあったので、気づきになりました。これについて考えていきます。

3 歯科健診や治療のための受診目的以外に、普段から歯科医院に慣れるために受診することが必要だと思いますか？

はい 22名 いいえ 0名

4 3で、「はい」と回答した方は、その理由を教えてください。

- ・ 歯医者に限らず、いざという時に医療受診したら暴れて大変だったというエピソードがよくあり、そのような子供さんの姿を見てショックだったと言われる保護者もいました。普段から親子共に安心できる場所があることも必要ですが、親自身がこの子でも治療を受けられるという成功体験を積むことも大事ななと思っています。
- ・ 定期的な検診が継続的な健康生活に直結し得ることが再確認できる為です。
- ・ 歯医者を身近に感じることができるよう。慣れた場所になることで、安心して治療を受けることにつながると思います。
- ・ 実際、自分自身は治療目的になってしまっているが、障がいのある方々は予防のためクリーニングなどで慣れて治療のハードルを下げる必要がある。また虫歯の早期発見で、痛くならないうちに治療が必要
- ・ 日々の支援で慣れることの大切さを実感しております。
- ・ いざ治療が必要となった時に初めて受診しても実際に治療が難しいと思います。本人が受診に慣れるということと同時に、歯科医師やスタッフの皆さんにその方の特性などを理解して頂くという意味でも必要だと思います。
- ・ 場所慣れ、人慣れはどなたであっても時間がかかることなので、関係構築や病気の早期発見にも繋がる必要性を感じます。
- ・ 口腔ケアは、健康の源と思えるから。
- ・ 親御さんたちは何かしら不安なことがいっぱいだと思います。「相談だけでも」と言ってくださっているので、他の歯医者さんもみんなそのスタンスでいてもらえると安心なことが一つでも増え（不安が減って）いいことだと思います。
- ・ 虫歯になってからではなく、日常的にかかりつけ医に行くことが大事。
- ・ 今日伝えていただいたのと同じ理由です。
- ・ 私自身、歯医者への健診は苦手です。でも、今の衛生士さんは、嘘か本当かはわかりませんが、「上手に歯磨きしてはりますね」と何回も言ってくれて、こんな年のおばちゃんでもそう言ってもらえると嬉しいものです。なので、障がいのある人たちも、そうやって毎回毎回、衛生士さんと話をするだけで、「よく来たね」と言ってもらうだけで、歯医者に行くことのハードルは下がってくるのだと思います。そのすすめ方、すごく大事だと思います。
- ・ 虫歯ができてから、慣らしでは、時間がかかるし、そもそも慣れることに時間もかかるので、慣れるためと日々のケアは、とても必要を要すると感じます。
- ・ イメージや経験から嫌がられる方が多いので、普段から慣れて行くハードルを少しでも下げて必要な時に行けるようにしておく事は必要だと思う。
- ・ 治療で行くと、どうしても痛いイメージ、嫌なイメージがついてしまうので、普段から慣れておくと、何かあった時に、慣れた環境で、信頼関係ができた Dr.に対応していただけるのは、とても安心だと思います。

- ・本当にすごく必要だと思います。実際その段階から診てもらうことで、虫歯時のハードルがすごく下がり、治療につながりそうな子がたくさんできそうなのが予想されます。
- ・今、成人の方を歯科に連れて行っています。ホームにいます。本人が「物がつまる」ことから始まり、銀歯がとれた、いつ、以前から、どこで、本人が困ってのことで、よく理由を進んで、今は通院しています。
- ・行き慣れていない方にとっての治療のハードルの高さは良く見知っています。
- ・歯科について、学校、事業所、医療、福祉等、触れる機会を多く持つ必要性、意識化に落とし込むには、普段からの必要性が必要だと考える。
- ・予防、日々のケアが必要。何かあってから、通院が難しい方にとっては、ハードルが高い。かかりつけがあった方が良く思うから。

5 3で「いいえ」と回答した方は、その理由を教えてください。

回答者0名

6 歯科受診をする上で、定期健診や未病の受診につながらない場合の背景には何があると考えられますか？

- ・ちゃんと通って治療できるのかという不安材料があること、実際に行ってみただけ特性を理解してもらえなくて本人が嫌な思いだけで終わったというのがあると思います。
 - ・本人の状態や家庭環境、歯医者＝虫歯になってから行く所というイメージが定着していると考えています。
 - ・保護者が歯医者に連れて行くエネルギーがないことがある。「乳歯は虫歯になっても抜けるからいいんです。」という保護者に何度か会ったことがあります。
 - ・自分もそうだが時間がない、痛くならないと必要性を感じにくい
 - ・やはりご家族が大変で、体力が必要な事が大木な原因でしょうか…？
- あとは提案や話を拒絶されるかも知れないと言う恐怖感もあるかもしれません。
- ・グループホームなどの生活の場に繋がっていない人が多い状況で、家族にその意識がないとなかなか難しいのでは、と感じます。通所などがその繋がりを作れるといいですね。
 - ・なかなか、専門の方以外の関係者では見た目にも分かりにくく、本人も痛みがない限り訴えにくさのようなものがあるかと思います。また他の通院と比べ、受診の際には本人の協力が不可欠なので、出来ないのではという思いが先立つのではないかと思います。
 - ・親の忙しさで後回しになってしまう。
 - ・親が受診をすることで、また嫌な思いをする、大変→やめておこうということがほとんどだと思います。市の健診や母親教室でこのことを広めてほしいです。
 - ・未病と言う意識がやはり大きいと思います。保護者さんにも普段から、なぜ通わないといけないかの見通しが必要だと思います。
 - ・連れていくことの大変さ。かかりつけ医が見つけられない。
 - ・保護者であれば、嫌がるのを宥めたり、時間を作ったり、色々な配慮をしたりとエネルギーを使うことがハードルの高さに繋がっていると考えられる。事業所の場合は体制等の課題があるかもしれない。
 - ・他の場所での嫌な経験、予約の取りづらさ、歯科に限らず、場所見知りで入れない。

・はれの樹さんができるまで、”子供が泣いて連れていけない”、”全身麻酔させたくないけど”、”しばりつけて治療されるから行きたくない”等色々聞くことができました。

・児童からの歯科のイメージがある（こわい、いやだ）。大人になってからは、痛くなったのか、どこか困っているのかを本人が伝えてきたときに、話を聞いてあげて、じゃいい先生がいるから、一緒に行こうかと安心させ、通院させています。（優しい先生）知っているのです。

・とにかく怖いというイメージ（本人）、連れて行って嫌な思いをした経験（親）など。

・普段の生活にいっぱいいっぱい、時間がない。余裕がない。連れていく自信がない。

・人々の意識（治ったら、それで後はいいと考えているかも）

・受診が大変。新しいことにチャレンジするのにハードルが高い。歯に対する優先度が低い。（何かあってからで良いと思っている）